

心動共進

～互いに心を動かし、
通かなる未来へ向かって
共に進もう～



2007年9月25日 Vol.350

やっさもっさ



MIHARA ANNIVERSARY

誇想力
創

(社)三原青年会議所
共育事業

後援:三原市教育委員会
三原商工会議所

今村克彦講演会&今村組よさこいLIVE IN 三原

子どもたちへ 夢と勇気を
大人たちへ 情熱を

10/8(月)祝日
リージョンプラザにて!
参加費無料

今村克彦が叫ぶ!

子どもらの本当の気持ち 分かったってや!

ただひたすら一生懸命に子どもと向き合ってきた教師と、道に迷い遠周りをしつつ、ついに目標を見つけ一生懸命生きる子どもたち! この感動の物語を体験してください。皆様のご来場をお待ちしております。このまちの未来を担う子どもたちのために。

12:00 開場・受付	12:30 第一部 文化ホール 今村克彦&今村組 LIVE&TALK 「情熱先生と子どもたちの感動物語」 今村組よさこい踊り・今村氏&今村組メンバーによるトーク・ライブ等。 様々な問題を抱え道に迷った子どもたちが、今村先生に出会い、希望を見つけ歩き出し、「札幌よさこい祭り」2年連続ファイナル進出まで果たした、見応えの踊りと感動の物語を体験ください。 対象/大人・子ども 定員/400名	13:40 休憩	14:00 第二部 (いずれか1つお選びください) 文化ホール 今村克彦講演会 「子どもが“いい子”でいたいと思う大人になれ」 教師として、真剣に必死に子どもたちと向き合い、導いて来た情熱と経験談、また子どもにとって理想の大人とは、といった教育論をお話しいたします。 対象/大人 定員/400名	南館2F和室 今村組しゃべり場 「今村組と語り合う青春」 今村組メンバーがそれぞれ問題を抱えつつ未来を目指して乗り越えてきた話を聞き、また皆さんが抱える問題を乗り越えるために語り合います。 対象/子ども(中～大学生) 定員/70名	屋外広場 今村組踊り体験会 「一緒に踊ろう、楽しもう」 よさこい踊りの体験会を通して、みんなで踊ることの楽しさを感じて下さい。多くのメンバーでサポートしますので一緒に踊って楽しみましょう。 対象/子ども(高校生以下) 定員/200名	15:00 終了
	12:00 開場・受付		14:00 第二部 (いずれか1つお選びください)	15:00 終了		

今村克彦とは

様々な不満や悩みや傷を持ち、道を見失った子どもたちを、誰よりも真剣に理解し向き合い導いてきた元小学校教師。

関西京都今村組とは

今村先生の元教え子が中心となり結成された、よさこい踊りチーム。そこには様々な問題を抱えた子どもたちも希望を求めて集まり、踊りを通して前を向いて一生懸命生きなおしている。

申込方法

電話又はFAXによる事前申込とさせていただきます。
電話の場合は参加者全員のお名前、年齢、電話番号、参加したい第二部の希望イベントをお伝えください。
FAXの場合はお名前、年齢、電話番号、参加したい第二部の希望イベントを明記して送信してください。(折り返しお電話させていただきます。申込完了とさせていただきます。(注)当日、受付にてお名前と年齢を本人確認させていただきます。【定員に満たない場合、当日受付も行います】)

申込・問合せ先

(社)三原青年会議所事務局(三原市皆実4-8-1 三原商工会議所内)
TEL/0848-63-3515 FAX/0848-62-1141 受付時間/平日10:00~17:00
(留守の場合は申し訳ありませんが、しばらくたってからおかけ直しいただくか、FAXにてご連絡ください。)

みはらTEPPAN倶楽部 ミーティング開催

第2回

本年度協働委員会では、三原の「食」を通じたまちづくりを目指し「三・食・感」をテーマに活動しております。皆様に親しまれている「三原のお好み焼き」に着目し、市民(大学生を含む)企業(お好み焼き店)行政の方々に参加していただき「みはらTEPPAN倶楽部」を立ち上げました。
2回目のミーティングをむかえ、参加者同士も親しくなり、参加した23名で賑やかに開催し「三原のお好み焼きを盛り上げてゆくためには?」というテーマで意見交換をしました。意見の中には、市内のイベントへの参加や、お好み焼きマップの作成、なかにはお好み焼きスタンプラリーの企画等の意見があり、外部へのPRというよりも、まずは三原

市内の方々に自分たちのまちを知っていただくことが必要では?という意見も多かったように感じました。次回はこれらの意見を踏まえ、これから三原市内で行われるイベントへの参加等を企画し、実行してゆくためのミーティングを開催致しますので、三原のまちを元気にしたい!自分も参加してみたい!と思われる方は是非お問合せください。
三原青年会議所は、この活動をひとつのきっかけとして「三原の活性化」を皆様と一緒に考えてゆきたいと考えます。みなさんのご支援・ご協力を宜しくお願い致します。
(協働委員会 委員長:作田佳史)



第2回ミーティング風景

みたかきいたか

「私みたいな女性が近くにいると貴方はきっと楽しいわ…」これは、故・夏目雅子さんが結婚する際のプロポーズの台詞。女性からのプロポーズは芸能人にとどまらず、私の周辺においてもゆるやかな増加傾向にあるように感じられる。◆男性からプロポーズはするべきものか否か、そういった

問題をここで語るつもりはないが、男女が尊重しあう社会づくりを目指す「男女共同参画」が推進されつつある今、女性からのプロポーズがじわり浸透してゆく様は、時代の推移を感じると共に、好ましく思える。
◆新聞報道によると、7月29日に三原市が行ったアンケートで「協働」という言葉を三原市民の約6割の人が「知らない」と答えた。「協働」という言葉の一般的な概

念は、例えば地域の課題解決に向けて、行政単独、または市民だけでは解決しにくい問題などがある場合に、互いに協力しあい補完し、その課題を解決してゆくことである。◆現在の行政は市民に対して閉鎖的なものではなく、むしろ市民との協働を望んでいるとも言える。行政と市民、まずは身近な素材で気軽に「協働しながら」まちづくりに参加し、その楽しさと充実感を体感

してもらうことが「協働のまちづくり」を拡大してゆくひとつの鍵なのかもしれない。
◆今、我々市民は行政から「協働のまちづくりを推進しよう」とプロポーズされている。女性から男性に気軽にプロポーズできる今の世の中、我々市民も「心から喜んでお受けします」と、笑顔でプロポーズに答える時が来たのではないだろうか。